

＜市町村名＞ 杉戸町

＜本事例の特徴＞

本町では、小・中学校配置の5名のALTを町内の公立幼稚園（5園）、公立保育園（3園）に、年3回程度派遣し幼児に対する国際理解教育の推進を図っている。

＜学校種＞ 幼稚園・保育所

＜具体的な取組や成果＞

(1) 各園における具体的な活動

- ・年少組（3歳児クラス）では、屋外での遊びや室内での簡単なゲームを通して、身体的活動を伴ったALTとの触れ合いに重点を置いた。
- ・年中組（4歳児クラス）では、色の言い方等を英語で教わった後に、その英語を活用したフルーツバスケット（色バージョン）等のゲームを行った。
- ・年長組（5歳児クラス）では、ALTによる英語と日本語での自己紹介、動物や色の名前、簡単な挨拶を英語で教わった。また、日本語で母国の話をしてもらい、他国の文化に対する興味・関心を広げることができた。
- ・お楽しみ会、クリスマス会等の行事にALTを招待し、子供たちとの交流を深めた。クリスマス会では、サンタクロースからの手紙を英語で代読してもらった。



(2) 成果と課題

- ・遊びや身体活動を伴ったゲームを通してのALTとの交流なので、子供たちも楽しみながら、他国の文化や英語に触れることができている。
- ・ALTの出身国の話を聞くことで、国旗や風習、有名なものなど、他国の文化に関心をもつ幼児が増えた。
- ・身振り手振りで伝えたり、知っている英語を言ったりして、楽しく活動できた。活動したことを、その後の遊びに取り入れ楽しむ幼児もいた。
- ・回数は年少組1回、年中組2回、年長組3回以上のように、発達段階等に応じて今まで以上に多く設定したい。そのためには、小・中学校の協力と調整が必要である。
- ・幼児の発達段階における活動のねらいの明確化と活動の継続性を図ることが必要である。単発の活動にならないよう実施時期、内容等を工夫することが必要である。

